

## 感染症の種類と対応



○感染力が強く、病気が治るまで登園できない病気（学校保健法より）

病名	潜伏期間	症状	登園の目安
咽頭結膜熱 (プール熱)	5～6日	発熱、咽頭発赤、咽頭痛、食欲不振、結膜炎 症状(目やに、目の充血など)	解熱し、主要症状消失後2日を経過して、体力が回復してから
インフルエンザ	1～2日	風邪様症状、発熱、全身倦怠感、関節痛、筋肉痛、頭痛、咽頭痛	発症した後5日(発症した日は数えない)を経過、かつ解熱後3日を経過し、体力が回復してから
水痘	11～20日	全身に点状発疹、水疱、かさぶたがいきまじって広がる、熱は不定	すべての発疹がかさぶたになってから
麻疹 (はしか)	10～12日	発熱、咳、鼻水、目やになどの風邪症状から始まり、高熱が2～3日続く。ほおの内側に白い斑点(コプリック斑)ができた前後に、熱は一時的に下がるが、再度高熱となり、全身に赤い発疹が広がる。発疹は徐々に色素沈着をおこすが、やがて自然に消える。	解熱後3日を経過し、体力が回復してから
風疹 (三日はしか)	14～21日	発熱、全身に広がる赤色発疹、耳下腺や首のリンパ節の腫れ	発疹が消失してから
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	14～24日	発熱、両側または片側の耳下腺の腫れ、圧痛、食欲不振	耳下腺の腫れが発現してから5日を経過し、全身状態が良好になってから
百日咳	9～20日	風邪様症状から始まる。次第に咳が強くなり1～2週間で特有な咳発作になる。(コンコンと咳き込んだ後にヒューと笛を吹くような音をたて息を吸う) 咳は夜間に悪化する。	適正な抗菌性物質製剤による治療を終了し、特有の咳が消失してから
腸管出血性 大腸菌感染症 (O157、O26など)	3～5日	腹痛、大量の新鮮血または水様の下痢、嘔吐、発熱、脱水症	症状消失し、医師に感染の恐れがないと認められてから
流行性角結膜炎	7日以上	目やに、目の充血、涙目、目の異物感、熱は不定	症状消失し、医師に感染の恐れがないと認められてから
急性出血性結膜炎	1～2日	発熱、眼球・まぶたの結膜の充血とそれに伴う点状出血、腫れ、目やに	症状消失し、医師に感染の恐れがないと認められてから

### ○条件によって、登園できない病気

病名	潜伏期間	症状	登園の目安
溶連菌感染症	2～7日	発熱、咽頭痛、イチゴ舌、全身への発疹	抗生物質服用開始後、2～3日を経過してから
手足口病	2～7日	手のひら、足の裏、口の中、肘、膝、おしりなどに米粒のような発疹や水疱ができる	医師の診断を受け、熱が下がり、体力・食欲が回復してから
リンゴ病 (伝染性紅斑)	17～18日	ほほの紅斑、腕や太ももなどのレース様の紅斑。 発疹は1週間程で消えるが、日光に当たると赤みが増すことがある	発疹が出たときには感染力がないので、登園可。 だるさや紅斑が強い場合は、医師の指示に従うこと
ヘルパンギーナ	2～7日	発熱、咽頭への水疱形成、咽頭痛、それに伴う食欲不振	主要症状が消失し、体力・食欲が回復してから
マイコプラズマ肺炎 (うつる肺炎)	10～24日	発熱、鼻水、激しい咳、呼吸困難	主要症状が消失し、体力・食欲が回復してから
RSウイルス感染症	4～6日	風邪に似た症状で始まり、ゼーゼーしたり、咳込みがひどくなる	症状が消失し、全身状態がよくなってから
突発性発疹	約10日	発熱が3日ほど続き、解熱とともに胸や腹部など全身に赤色の発疹が出現する	解熱し、主要症状が消失してから
乳幼児嘔吐下痢症 (ウイルス性胃腸炎)	1～3日	嘔吐、下痢、腹痛、軽い発熱 ロタウイルスでは、白色下痢便が続く	主要症状が消失し、体力・食欲が回復してから
感染性胃腸炎 (ノロウイルス)	1～3日	嘔吐、下痢、腹痛、軽い発熱	主要症状が消失して、2日を経過し、体力・食欲が回復してから
ヘルペス性 (歯肉)口内炎	2～14日	発熱、口唇・舌・口の中へ潰瘍形成、痛み、食欲不振	主要症状が消失し、食欲が回復してから

### ○登園停止は必要ない病気

病名	潜伏期間	症状	登園の注意
水いぼ (伝染性軟属腫)	14～50日	1～5mm大の半球状いぼが、背中、脇の下など全身に広がる	患部を掻き崩している場合は、ガーゼなどで保護して登園する
とびひ (伝染性膿痂疹)	2～10日	皮膚に強いかゆみのある水疱ができ、掻き崩ことにより全身に広がる	患部が乾燥していない場合は、ガーゼなどで保護して登園する
頭じらみ	子どもの 頭髮に寄生	耳の後ろや後頭部のかゆみ、それに伴ういらつき、不眠	駆除シャンプーは指示通り使用のこと。洗濯や消毒については保育園と相談すること